

# 諸 報 告

## ページ

## 第 1 前回幹事会以降の経過報告

|   |         |   |
|---|---------|---|
| 1 | 会長メッセージ | 1 |
| 2 | 会長等出席行事 | 4 |

## 第 2 各部・各委員会等報告

|   |                    |    |
|---|--------------------|----|
| 1 | 部会の開催とその議題         | 4  |
| 2 | 幹事会附置委員会の開催とその議題   | 4  |
| 3 | 機能別委員会の開催とその議題     | 4  |
| 4 | 分野別委員会の開催とその議題     | 5  |
| 5 | 課題別委員会の開催とその議題     | 11 |
| 6 | 若手アカデミーの開催とその議題    | 12 |
| 7 | サイエンスカフェの開催        | 13 |
| 8 | 総合科学技術・イノベーション会議報告 | 13 |
| 9 | インパクト・レポート         | 13 |

## 第1. 前回幹事会以降の経過報告

### 1 会長メッセージ

#### 会員・連携会員の皆様への会長メッセージ

「日本学術会議第23期2年目（平成27年10月～平成28年9月）の活動に関する評価」における指摘事項に対する考え方について

平成29年6月13日

会長 大西 隆

本年4月に開催された日本学術会議第173回総会では、外部評価有識者の尾池和夫座長から、日本学術会議第23期2年目（平成27年10月～平成28年9月）における日本学術会議の活動状況に関する評価（以下「外部評価」という。）について、御報告いただきました。

外部評価は、尾池座長をはじめとする6名の外部評価有識者の皆様に、日本学術会議の活動状況について評価していただき、その内容をまとめたものです。

外部評価では、日本学術会議の活動をより一層積極的かつ効果的なものにしていくため、活動面、組織面について、重要な御指摘をいただきました。御指摘のあった以下の点について、私の考えと決意をお伝えします。

#### 1. 迅速な審議について

##### 【指摘事項（外部評価から抜粋）】

「一期三年」ととらわれず、例えば審議スケジュールを「1年間」「半年間」等と一定期間に定めることで、より迅速に審議して頂きたい。特に社会的に注目されている課題については、時宜を得て提言を出せるよう、迅速に審議頂きたい。

##### 【指摘事項についての考え方】

テーマに応じて迅速な審議を行うことは、特に日本学術会議の社会的責任という観点で重要です。

最も迅速に対応する方法は、会長談話、幹事会談話等であり、これまでも折に触れてこうした方法を用いてきました。また、社会的に重要なテーマについて分野横断的に審議する「課題別委員会」では、比較的短期間で「提言」等を公表した例があります。例えば、課題別委員会である「安全保障と学術に関する検討委員会」では設置1年以内に、また、「学術の観点から科学技術基本計画のあり方を考える委員会」では設置半年以内に声明・報告・提言を取りまとめて公表しました。今後も、社会的に注目されている課題について、時宜を得た提言を出せるように、可能な限り迅速に審議を進めることが重要です。

一方、分野別委員会等においては、会員及び連携会員の任期等を踏まえると「一期三

年」を活動の目安として、3年かけて公表文書をまとめることが多いようです。しかし、ここでも、テーマによっては、できる限り迅速な審議を心がけることが求められると思います。迅速な審議は、提言等の期末への集中緩和にも資すると考えられます。

## 2. 活動内容の周知・フォローアップについて

### 【指摘事項（外部評価から抜粋）】

日本学術会議の「提言・報告」等の活動内容が十分に活用されるように、ホームページ等広報媒体の工夫を含め、社会への幅広い周知・関係者への働きかけ等を強化すべきである。特に重要テーマについては、長期的にフォローアップする体制を整え、周知度調査を実施し、必要に応じて提言・報告等を改訂すべきである。

### 【指摘事項についての考え方】

これまでも、提言などが出っぱなしになっているのではないかとの指摘がありました。このため、周知やフォローアップのための方法を取り入れてきました。

主なものは、提言等の公表時に、記者会見・報道発表によってメディア等を通じて周知に努めたり、シンポジウムやサイエンスカフェの開催を通じて議論を喚起してきました。また、日本学術会議の広報媒体としては、雑誌「学術の動向」の編集協力を通じた情報発信のほか、学会等にメール配信する「日本学術会議ニュース・メール」、ホームページ、Twitter等を活用しています。今後もこうした広報や議論喚起の手段を積極的に活用していく所存です。

また、提言等の長期的なフォローアップも重要な課題であり、重要テーマについて、一定の期間を経過したら、再度同一にテーマに取り組んで発信することも意味があると思います。

## 3. 「選択と集中」の徹底について

### 【指摘事項（外部評価から抜粋）】

日本学術会議として「選択と集中」を徹底していただきたい。取組を強化すべき重点活動を特定し、当該活動に関する学術調査員増員、周知・広報の強化、提言等の追跡調査の実施等に取り組んでいただきたい。

一方、委員会の期末見直しの徹底、連携会員数の見直し等のスリム化にも取り組んでいただきたい。

### 【指摘事項についての考え方】

限られた会員・連携会員、予算、事務局スタッフを考えると、選択と集中は日本学術会議が常に念頭に置く必要のあるテーマです。

選択と集中を、効果的に進めるために設けられたのが、分野横断的な「課題別委員会」であると考えています。最近の活動では「安全保障と学術」や「ゲノム編集」に関する課題別委員会の活動が、社会的にも大きく注目されています。人員や予算を、社会的に重要性の高いテーマに集中し成果を上げることが必要です。

学術会議はボトムアップ型の組織であり、様々な分野の分科会や、その活動を支える会員・連携会員が役割を果たすことが重要です。一方、国費を用いて活動する以上、委員会・分科会等の設置・活動に際しては、「真に重要な課題に関して提言・報告等の具体的な成果を社会に示すことができる見込みがあるか」という点について、対外的な説明責任を果たす必要があります。本年 10 月から始まる第 24 期への入れ替わりに際しては、以上の観点を踏まえ、しっかりと連携会員の選考及び委員会・分科会等の期末・期首の見直しを実施します。

#### 4. 次世代の科学者育成に関する活動について

##### 【指摘事項（外部評価から抜粋）】

全学問分野を俯瞰する日本学術会議として、初等・中等教育から高等教育までの在り方を含めて、次世代の科学者育成に関する分析・提言を充実して頂きたい。また、若手アカデミーについては、地方在住等の若手科学者を含め、活動強化に取り組んで頂きたい。

##### 【指摘事項についての考え方】

与えられたミッションから見て、日本学術会議の提言等が研究活動や高等教育を対象としたものとなりがちなのは避けられないかと思います。

しかし、次代を担う人材の育成という観点から、これまでも、初等・中等教育から高等教育までの在り方について、様々な提言を公表しており、第 23 期には英語、算数・数学、高校公民等に関してそれぞれ提言を公表してきました。こうした教育分野は重要な課題の一つであり、今後も積極的に取り組んでまいります。

また、本年 10 月の会員・連携会員の半数改選に当たっては、若手の選考にも十分留意し、今後、若手アカデミーの体制が大幅に強化できるように取り組んでまいります。

#### 5. 科学者の倫理に関する取組

##### 【指摘事項（外部評価から抜粋）】

我が国の科学者が社会からの信頼を確固たるものになるよう、「科学者の倫理」に関する取組を強化して頂きたい。また、日本学術会議自体が高い倫理を保ち、社会からの信頼を得られる機関となるよう取り組んで頂きたい。

##### 【指摘事項についての考え方】

これまでも「科学者の行動規範」や「日本学術会議憲章」等を作成・周知するとともに、学術会議の各種活動について関連規定を整備してきたところです。これを機に、会員・連携会員が、これらを遵守することが重要です（別紙参照）。日本学術会議では今後とも、科学者の倫理に関する取組を積極的に実施してまいります。

（別紙）

- ・日本学術会議憲章
- ・科学者の行動規範

※別紙は幹事会資料掲載省略

## 2 会長等出席行事

| 月 日                           | 行 事 等                          | 対 応 者 |
|-------------------------------|--------------------------------|-------|
| 6 月 1 日 (木)                   | 総合科学技術・イノベーション会議有識者会合          | 大西会長  |
| 6 月 8 日 (木)                   | 総合科学技術・イノベーション会議有識者会合          | 大西会長  |
| 6 月 8 日 (木)                   | 公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム 2017」(講堂) | 大西会長  |
| 6 月 13 日 (火)～<br>6 月 17 日 (土) | 第 17 回アジア学術会議 (フィリピン・マニラ)      | 花木副会長 |
| 6 月 15 日 (木)～<br>6 月 17 日 (土) | 第 17 回アジア学術会議 (フィリピン・マニラ)      | 大西会長  |
| 6 月 22 日 (木)                  | 総合科学技術・イノベーション会議有識者会合          | 大西会長  |

## 第 2. 各部・各委員会報告

### 1 部会の開催とその議題

なし

### 2 幹事会附置委員会の開催とその議題

なし

### 3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 選考委員会 理学・工学選考分科会 (第3回) (5月30日)

- ① 前回の議事要旨の確認
- ② 会員候補者の選考について
- ③ 連携会員候補者の選考について
- ④ その他

(2) 選考委員会 人文・社会科学選考分科会 (第3回) (6月7日)

- ① 前回の議事要旨の確認
- ② 会員候補者の選考について
- ③ 連携会員候補者の選考について

④ その他

(3) 科学と社会委員会 ゲノム編集技術と社会に関する検討分科会（第1回）（6月7日）

- ① 役員の選出
- ② サイエンスアゴラについて
- ③ その他

(4) 科学者委員会（第38回）（6月7日）

- ① 「女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～」主催（共催）の件
- ② 東北地区会議主催（共催）公開シンポジウム開催の件
- ③ 近畿地区会議主催学術講演会開催の件
- ④ 東北地区会議主催学術講演会開催の件

(5) 科学と社会委員会持続可能な開発目標（SDGs）対応分科会（第1回）（6月8日）

- ① 役員の互選について
- ② 課題の確認について
- ③ 今後の進め方について
- ④ その他

(6) 国際委員会国際会議主催等検討分科会（第16回）（6月9日）

- ① 「第29回世界病理臨床検査医学会連合会議」の後援について
- ② 「世界科学データシステム・アジア大洋州地区会議2017」の後援について
- ③ 「世界科学館サミット2017」の後援について
- ④ 「世界天文コミュニケーション会議2018 in 福岡」の後援について

(7) 国際委員会（第33回）（6月21日）

- ① 国際会議の後援申請について（4件）

(8) 選考委員会（第17回）（6月23日）

- ① 前回の議事要旨の確認
- ② 会員候補者の選考について
- ③ 連携会員候補者の選考について
- ④ その他

#### 4 分野別委員会の開催とその議題

##### 第一部担当

(1) 政治学委員会 政治思想・政治史分科会（第6回）（5月27日）

- ① 9月開催の公開シンポジウムの準備について

- ②今後の事業計画など
- ③その他

(2) 心理学・教育学委員会 健康・医療と心理学分科会（第6回）、心理学教育プログラム  
検討分科会（第6回）合同分科会（5月28日）

- ①公認心理師カリキュラムの公表を受けての提言策定について
- ②分科会としての提言案の取扱いについて
- ③その他

(3) 法学委員会 「大規模災害と法」分科会（第7回）（5月29日）

- ①岡田委員による報告
- ②その他

(4) 社会学委員会 社会理論分科会（第8回）（6月3日）

- ①シンポジウム（関東社会学会との共催）について
- ②今後の社会理論分科会のあり方（第24期への引継ぎ）について
- ③その他

(5) 心理学・教育学委員会 社会のための心理学分科会（第7回）（6月4日）

- ①公開シンポジウムに基づく今後の対応について
- ②その他

(6) 地域研究委員会 人文・経済地理学分科会（第8回）（6月5日）

- ①提言のインパクトレポート作成
- ②次期の活動予定
- ③その他

(7) 言語・文学委員会（第9回）（6月10日）

- ①分科会のあり方について
- ②連携会員の推薦について
- ③その他

(8) 言語・文学委員会 科学と日本語分科会（第10回）、古典文化と言語分科会（第9回）  
合同分科会（6月10日）

- ①次期の分科会体制について
- ②その他

(9) 法学委員会 ジェンダー法分科会（第3回）（6月11日）

- ①最近のジェンダー関係立法について

- (i) 性犯罪
- (ii) 労働
- (iii) 社会保障

- ②シンポジウムの予定について
- ③その他

**(10) 法学委員会 「学術と法」 分科会 (第9回) (6月16日)**

- ①報告 小森田委員「人文・社会科学に関する第一部の提言について」
- ②報告 佐藤委員「法科大学院アンケートの集計結果について」
- ③今期本分科会の活動について
- ④その他

**(11) 第一部 科学と社会のあり方を再構築する分科会 (第7回) (6月22日)**

- ①緊急時・平時における学術情報の発信体制をめぐって
- ②今後の進め方について
- ③その他

**第二部担当**

**(1) 農学委員会・食料科学委員会合同 遺伝子組換え作物分科会 (第5回) (5月26日)**

- ①畜産学分野におけるゲノム編集を含む新しい育種技術の現状と社会変容について  
佐藤英明会員 (食料科学委員会 畜産学分科会委員 東北大学名誉教授)
- ②水産学分野におけるゲノム編集を含む新しい育種技術の現状と社会受容について  
木下政人博士 (京都大学農学研究科助教)
- ③作物育種を含む植物科学における新しい育種技術の現状と社会受容について  
分科会委員からの報告
- ④ ①－③の報告をもとに総合討論
- ⑤その他 (記録の作成等今後の方針について)

**(2) 基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 生物リズム分科会 (第3回) (5月28日)**

- ①第23期における分科会活動のまとめと第24期への申し送りについて
- ②今後の活動計画について
- ③シンポジウムの準備状況について
- ④その他

**(3) 農学委員会 農業経済学分科会 (第9回) (5月28日)**

- ①農業経済学教育のあり方について
- ②その他

(4) 農学委員会 林学分科会 (第6回) (5月29日)

- ①提言書等の発信について
- ②第23期分科会活動の総括
- ③その他

(5) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同 自然史・古生物学分科会 (第5回) (5月31日)

- ①大学の標本資料について
- ②提言「国立自然史博物館設立の必要性」のフォローアップについて
- ③その他

(6) 農学委員会 農業生産環境工学分科会 (第7回) (6月5日)

- ①各WGの活動報告と活動計画
- ②都市農業に関する提言とシンポジウムについて
- ③その他

(7) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生物科学分科会生物科学分野教育用語検討小委員会 (第3回) (6月6日)

- ①高校生物教科書の重要語の選定について
- ②その他

(8) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 遺伝学分科会 (第5回) (6月6日)

- ①「記録」の作成について
- ②その他

(9) 臨床医学委員会 出生・発達分科会 (第7回) (6月6日)

- ①23期の成果の総括と次期への引継ぎ事項について
- ②その他

(10) 薬学委員会 化学・物理系薬学分科会 (第5回) (6月9日)

- ①化学・物理系薬学領域の課題について
- ②その他

(11) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生物科学分科会 生物科学分野教育用語検討小委員会 (第4回) (6月22日)

- ①高校生物教科書の重要用語の選定について
- ②その他

### 第三部担当

(1) **地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会**（第11回）（5月29日）

- ① 話題提供：奥村晃史委員「地表地震断層の調査・分析・災害評価」
- ② 提言（案）について
- ③ 9月17日開催の公開シンポジウムについて
- ④ 「学術の動向」の特集について
- ⑤ その他

(2) **化学委員会高分子化学分科会**（第5回）（5月30日）

- ① 大型研究マスタープランについて
- ② 高分子科学の最近の情勢について
- ③ その他

(3) **電気電子工学委員会 URSI 分科会 非電離媒質伝搬・リモートセンシング小委員会（略称F小委員会）**（第7回）（5月31日）

- ① URSI 総会への対応について
- ② 第24期の委員構成について
- ③ 今後の活動予定について
- ④ その他

(4) **材料工学委員会 バイオマテリアル分科会**（第8回）（6月1日）

- ① マスタープランに基づくロードマップ2017への対応について
- ② 提言に対するコメントと対応について
- ③ 学術会議主催シンポジウムについて
- ⑤ 今後の活動について
- ⑥ その他

(5) **地球惑星科学委員会 IGU 分科会**（第8回）（6月5日）

- ① WSSF のセッションについて
- ② IGU の動静
- ③ 地理オリンピックについて
- ④ ICA について
- ⑤ IGU 役員会（2018年4月9日）について
- ⑥ IGU 関係の公開シンポジウム開催について

(6) **総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心リスク検討分科会安全目標の検討小委員会**（第18回）（6月6日）

- ① 「報告」最終版の確認とコメント対応
- ② 安全工学シンポジウムに関する確認
- ③ その他

(7) 総合工学委員会原子力事故対応分科会(第7回)及び、福島第一原発事故調査に関する小委員会(第20回)、原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会(第2回)、原子力連絡小委員会(第4回) 合同会議 (6月8日)

- ① 前回議事録確認
- ② 分科会、小委員会からの報告
- ③ 今後の進め方に関する議論(提言・報告・記録とそれらの英文版、シンポジウム、学術の動向ほか)
- ④ その他

(8) 情報学委員会 e - サイエンス・データ中心科学分科会(第7回)(6月8日)

- ① 報告事項
- ② AI・ビックデータ利活用展望調査報告書
- ③ その他

(9) 総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会 地球温暖化対応の視点からのエネルギー対策・政策検討小委員会(第6回)(6月9日)

- ① 前回議事要旨の確認
- ② 「報告」の現状報告
- ③ シンポジウム開催企画案について
- ④ その他

(10) 化学委員会(第11回)・化学企画分科会(第6回)合同会議(6月13日)

- ① 分子研所長招聘会議最終打ち合わせ
- ② 合同分科会(12月)について
- ③ その他

(11) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会 計算力学小委員会(第6回)(6月13日)

- ① 第23期 計算科学シミュレーションと工学設計応用分科会活動報告
- ② 計算力学参照基準の最終版について
- ③ 第7回シンポジウムについて
- ④ 第24期に向けて
- ⑤ その他

(12) 総合工学委員会 IC0 分科会 (第9回) (6月16日)

- ① IC0に関する状況報告
- ② IC0-24の準備状況
- ③ 国際光データについて
- ④ その他

(13) 情報学委員会 ITの生む諸課題検討分科会 (第1回) (6月21日)

- ① 委員長・幹事選出
- ② シンポジウム「情報学の光と影(仮題)」(8月9日午後@日本学術会議講堂)開催について

(14) 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会 (第6回) (6月22日)

- ① 総合工学委員会の報告
- ② 公開シンポジウム「日本の科学と産業の停滞と復興」の趣旨と議論すべき内容について
- ③ 今後のスケジュールについて

(15) 環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同低炭素・健康社会の実現への道筋と生活様式・消費者行動分科会 (第11回) (6月23日)

- ① 提言のその後の経緯と今後のとりまとめ
- ② 生活科学の立場から見た提言に対する意見：那須民江先生
- ③ シンポジウムの進め方
- ④ 次回の予定

## 5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方検討委員会 (第9回) (5月29日)

- ① シンポジウムの報告について
- ② 提言の内容について
- ③ 今後の予定について
- ④ その他

(2) 東日本大震災に係る学術調査検討委員会拡大役員会 (第7回) (5月29日)

- ① 提言のとりまとめについて
- ② その他

(3) 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会 (第3回) (6月2日)

- ① 防災学術連携体の現状
- ② 本委員会及び防災学術連携体の2016年9月から2017年度5月までの活動報告  
学術の動向2016年11月号「特集」発行報告

公開シンポジウム 2016 年 12 月 1 日開催の報告

熊本地震・1 周年報告会 2017 年 4 月 15-16 日の開催の報告

③ 本委員会及び防災学術連携体の 2017 年度 6 月以降の活動

防災推進国民大会 2017 への参加企画案（2017 年 11 月 26-27 日、会場：仙台国際センター）

④ 課題別委員会「科学技術を生かした防災・減災政策の国際的発展に関する検討委員会」の活動概要と連携

日本学術会議主催の防災に関する国際会議（2017 年 11 月 23-25 日、会場：日本学術会議）の企画など

⑤ 今後の活動について

⑥ その他の議題

(4) 原子力利用の将来像についての検討委員会原子力発電の将来検討分科会（第 8 回）（6 月 2 日）

① 提言について

② その他

(5) 東日本大震災に係る学術調査検討委員会（第 9 回）（6 月 19 日）

① 提言（最終案）について

② その他

(6) 東日本大震災復興支援委員会原子力発電所事故に伴う健康影響評価と国民の健康管理並びに医療のあり方検討分科会（第 10 回）（6 月 20 日）

① 意思の表出について

② 小委員会からの提言の審議

③ その他

(7) 原子力利用の将来像についての検討委員会（第 2 回）（6 月 22 日）

① 提言について

② その他

## 6 若手アカデミーの開催とその議題

(1) 若手アカデミー 拡大運営分科会（第 2 回）、若手科学者ネットワーク分科会（第 7 回）、合同会議（6 月 2 日）

① 新規メンバーについて

② 若手科学者ネットワークメーリングリストの管理について

③ 今後の若手科学者ネットワーク分科会の運営について

- ④今後の若手科学者サミットの開催について（拡大運営分科会）
- ⑤他の分科会との連携について（拡大運営分科会）
- ⑥その他

## 7 サイエンスカフェの開催

日 時：5月26日（金）19：00～20：30

場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ（旧庁舎1階）

テーマ：「農業と障がい者福祉の協働を考える」

ゲスト：濱田 健司（一般社団法人J A共済総合研究所主任研究員・全国農福連携推進協議会会長）

コーディネーター：澁澤 栄（日本学術会議会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）

日 時：6月22日（木）18：00～19：30

場 所：ステーションビルMIDORI長野3階りんごのひろば

テーマ：「セミから考える気候の変化」

講 師：沼田 英治（日本学術会議連携会員、京都大学大学院理学研究科生物化学専攻教授）

## 8 総合科学技術・イノベーション会議報告

### 1. 本会議

なし

### 2. 専門調査会

なし

### 3. 総合科学技術会議有識者議員会合

6月1日 出席

6月8日 出席

6月15日 欠席

6月22日 出席

## 9 インパクト・レポート

オープンサイエンスの取組に関する検討委員会

提言「オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言」  
インパクト・レポート

### 1 提言内容

### （背景）

日本学術会議は、2010年にオープンアクセスについて「学術誌問題の解決に向けて—「包括的学術誌コンソーシアム」の創設—」を、2015年に「第5期科学技術基本計画のあり方に関する提言」を発表した。内閣府「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」などの内外の動向を踏まえて、本検討委員会を発足し、特に「研究データのオープン化」と「データ共有」のあるべき姿に焦点を絞って検討を行った。種々の研究コミュニティと行政への意見聴取とともに第一部、第二部、第三部の関連学協会へのアンケートを行った。過半の学協会が論文や論文にかかわるデータ、データベース等のデジタルデータをすでに公開し、また半数程度の学協会が、フォーマットなどの共通化により、一層価値が高まる可能性を持つデータもあるとしている。

### （提言内容）

- (1) 研究分野を超えた研究データの管理およびオープン化を可能とする研究データ基盤の整備：コスト負担やサイバーセキュリティ対策に考慮しつつ、研究データのオープン化により研究活動を迅速化し、さらに異分野融合や社会実装を推進するために、内閣府および文部科学省は、これらの課題を解決する研究データ基盤を戦略的かつ早急に整備すべきである。
- (2) 研究コミュニティでのデータ戦略の確立：各研究コミュニティは、対象となるデータの見極め、占有期間の設定、データのオープン範囲の決定、そしてデータ解析ツールの包含などのオープン・クローズ戦略とガイドラインを検討すべきである。特に重要なのが対象となるデータの見極めである。
- (3) データ生産者およびデータ流通者のキャリア設計：データ生産者およびデータ流通者は、従来の業績評価方法である論文や特許などの形で研究業績を残すことができない。海外での論文へのデータ生産者やデータ流通者の記名などのインセンティブや評価の手法を我が国でも積極的に取り入れることにより、データ生産者やデータ流通者が研究者としてのキャリアを形成できるよう、文部科学省は制度的・組織的な対応を進めるべきである。

## 2 採択年月日

平成28年7月6日

## 3 社会的インパクト

### （1）政策

委員会活動中また提言発表後に政策関係では、要請により以下のように多数の委員会などで提言内容の紹介を行った。

- 2015年11月12日 内閣府「オープンサイエンス推進に関するフォローアップ検討会」  
<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/opnscflwup/3kai/3kai.html>
- 2016年2月29日国立研究開発法人科学技術振興機構主催の「データシェアリングシンポジウム—科学の発展への起爆剤—データ駆動型科学の推進に向けて」

- 2016 年 7 月 4 日内閣府 CSTI 原山議員への説明
- 2016 年 7 月 11 日文部科学省小松研究振興局長への説明
- 2016 年 9 月 9 日内閣府「オープンサイエンス推進に関するフォローアップ検討会」  
<http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/opnscflwup/7kai/7kai.html>
- 2016 年 10 月 18 日文部科学省学術情報委員会  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/036/shiryo/1378712.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/036/shiryo/1378712.htm)

内閣府 CSTI 原山議員への説明にて提言の重要性をお認めいただき、G7 のオープンサイエンス WG へのインプットのため、英語版の要請を受けた。2016 年 8 月 30 日英語版を公表した。この英語版が G7 オープンサイエンス WG に紹介されたほか、大西会長や渡辺第三部会員から、以下のようにオープンサイエンス関連の国際会議にて、提言の紹介が行われた。

- 2016 年 9 月 6-9 日 大西会長 Latin American and Caribbean Open Science Forum Montevideo - Uruguay、UNESCO 他
- 2016 年 9 月 11-17 日 渡辺第三部会員 SciDataCon 2016 and International Data Week@コロラド

また、文部科学省学術情報委員会でも本提言を報告した。学術情報委員会「学術情報のオープン化の推進に浮いて（審議まとめ）において、日本学術会議 は、学協会等の意見を取りまとめ、研究者コミュニティとしてのコンセンサスを形成する役割を求められている。  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/04/08/1368804\\_1\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/04/08/1368804_1_1_1.pdf)

さらに、内閣府、文部科学省、そして日本学術会議の活動を受け、国立情報学研究所に大学や研究機関におけるオープンサイエンス活動を支えるための ICT 基盤の構築と運用を行うオープンサイエンス基盤研究センターが新設された。

・2017 年 4 月 1 日 国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター新設（ニュースリリース添付）

[http://www.nii.ac.jp/userimg/press\\_20170403.pdf](http://www.nii.ac.jp/userimg/press_20170403.pdf)

## （２）学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

日本学術会議関係や出版社関係からも本提言の紹介を求められている。7 月以降も講演依頼がある。

- 2016 年 6 月 24 日第 6 回理学・工学系学協会連絡協議会にて、アンケート調査結果を踏まえた活動報告。
- 2017 年 1 月 12 日 日本学術会議情報学シンポジウム
- 2017 年 3 月 28 日 Improving Quality of Research and Accelerating Open Innovation,

Open Research Forum, NISTEP および Springer Nature 主催

<http://www.natureasia.com/ja-jp/openresearch/open-research-forum>

ネイチャー誌記事添付

- 2017 年 5 月 18 日これからの学術情報—オープンサイエンスを巡って—、危機に瀕する学術情報の現状とその将来、日本学術会議主催学術フォーラム.

#### 4 メディア

- 日経新聞 2016 年 10 月 10 日 新聞記事添付

<http://blog.goo.ne.jp/pineapplehank/e/67d7abdec74a24e510e8ee4fd330811>

#### 5 考察と自己点検

日本学術会議として、人文学・社会学も含めて意見聴取と、学協会からのアンケートを行い、提言をまとめ、研究データ基盤の必要性和、研究コミュニティでのデータ戦略の確立、データ生産者およびデータ流通者のキャリア設計の必要性を訴えた。その結果、日経新聞で紹介され、さらに研究データ基盤については、国立情報学研究所に大学や研究機関におけるオープンサイエンス活動を支えるための ICT 基盤の構築と運用を行うオープンサイエンス基盤研究センターが設置され、提言発表の意義を果たすことができた。

一方、研究コミュニティでのデータ戦略の確立とデータ生産者およびデータ流通者のキャリア設計については、日本学術会議としては、学術情報課題の一環として、引き続き取り組んでいく必要がある。

インパクト・レポート作成責任  
オープンサイエンスの取組に関する検討委員会  
委員長 土井美和子